

早川から望む焼山(糸魚川市)

ノーマルな活動をニューノーマルに！

支部長 茂木 徹 (60年度)



新型コロナの扱いが5類に引き下げられたことを受け、制限のあった活動も3年前の水準に戻すことができるようになりました。そのような中で開催した5/13の支部総会。OBの皆様からご参加いただき、本格的な活動再開の幕明けにふさわしいスタートとなりました。

私は、令和5年度のキャッチフレーズに、**ノーマルな活動をニューノーマルに！**を掲げ、3年前に戻すのではなく、感染症下で工夫し生み出した新たな方法やICT活用を積極的に取り入れ、新しいスタイルを目指すことを伝えました。その拠り所となる考え方が次の4点です。

- 会員の絆を深める“face to face”の場面はあえてしっかりと位置付ける。
- オンライン効果が高いものは、躊躇せずに取り入れ、時代に合った活動を推進する。
- 意味ある事、価値ある活動は継続し、目的や効果の曖昧なものは取りやめる。

- ニューノーマルな活動に見合った会費の運用と額についての検討を行う。

これまで受け継がれてきた取組や方法にも意味や価値があります。人と直接対面し、話さなければ感じられない熱量や喜びがあります。オンラインにより生み出される時間と距離の短縮は絶大です。それぞれの良さを取捨選択し融合しながら、未来に向けた上越支部の「ニューノーマル」を創っていければと考えます。

とりわけ、ときわ会創設150周年を迎える今年度。これまで脈々と受け継がれてきた会員同士の絆や崇敬、支部や年度の強固な結束や連帯など、時代は変わっても学ぶべき点が非常に多くあります。だからこそ、私たちは、これまでの歴史に学び、未来に繋ぐ【温故知新】の考え方を大切にするとともに、学びの主体者として【主体性】を発揮し、学校・地域・社会に【貢献】できる上越支部会員でいられるよう、ともに歩んでいこうではありませんか。